らんことを請ふ、通人これを今玄ばしとめて金壹分を與ふ、やがてまた歸らんとすれば又金を與ふ、其内、家より小者を遣して呼しむ、通人又金を與ふ、二時に至らずして金子あまた費したりとぞ、

〔毛吹草三〕尾張　南方鐳（ナンバウケヌキ）　越前　金津鐳（カナヅケヌキ）

鐳子産地

〔江戸鹿子六〕諸職名匠諸商人

鐳子屋　日本橋南四丁目　うぶけや茂左衞門　淺草通九町目　河内

〔鹽尻一〕けぬきを南方と名つけしこと

一名古屋鐳を製する鍛冶に南方と云者有、傳へ言、義敎將軍利○足の富士御覽の時、熱田の圓福寺に御止宿ありし時、鐳鍛冶、けぬきを奉りしかば、なんぼうよき鐳也と仰ありしより、家號とせりとなん、按此說非なり此號は近衞龍山公より拜領の號なりといふ、是は孔明出師表に、ふかく南方不毛の地に入とありしより、能喰ふ鐳の號に被下しとなん云傳ふ、此說是ならんか、

〔本朝世事談綺二器用〕南方鐳

尾州名護屋の産也、南方の名は近衞殿のつけさせられしと云、孔明が出師の表に、深く不毛に入り、今南方已定、甲兵足れりの心也と云、

〔本朝世事談綺正誤一器用〕榊巷說苑曰、鐳子を南方と名づけたるは、不毛と云心にて、出師表よりいふとぞ、むかし關東へ下りける勅使の、かのけぬきもとめて、さる名をばつけゝるとぞ、筑後守君美申されし、

〔おろか於比中〕南方鐳

諸の道中記には漏たれど、尾張宮宿の○略中南方の鐳は、古來只一家にて、あまた賣るゝものにもあらねば、贋物を造る人もなく、分家などいふもある事なし、寛永十五年重種の編輯しける毛吹